



▲赤タマネギ



▲放牧中の山羊と羊



▲カボチャ(長チャン・ロロン・雪化粧・白栗)



▲昔ながらの牛舎と牧草ロール



▲長葱(ホワイトスター)

然に恵まれた地域で、キングルビー(メロン)、マドンナ西瓜、軟白長葱、ピュアホワイト(トウモロコシ)などを地域の特産品としています。お米も芦別岳の雪解け水を使用した特産品です。市の東の東山地区では、高級食材として有名なユリ根やスイートコーンが特産品です。農産品だけではなく、ワイン工場やぶどう果汁工場、チーズ工房などの地場農産物を利用した加工品作りにも富良野は力を入れています。

はくちょうもち米

南富良野町は、富良野市の南にあります。かなやま湖が有名ですが、町の総面積の90%が山林であり、農耕地は全体の4%にしかすぎません。主な農作物は、ニンジン、ジャガイモで、道内屈指の産地です。冷涼な気候のため、水稻は、もち米生産に転換し、良質で味の良い米の安定供給を目指しています。はくちょうもち米は、長持ちする粘りと、やわらかさが特徴で、その品種の名前の由来は、まっ白な米が力強く羽ばたいて広く普及されることを願って名付けられたとのこと。酪農・畜



産では、乳用牛の生産額が、肉用牛の生産額を上回っていることから、酪農の方が盛んであることがわかります。

酪農・山菜も

占冠村は、上川管内の最南端に位置しています。主な農産物は、メロン、ほうれん草、ジャガイモ、カボチャ、トウモロコシ、ピータなどです。冬期は-30℃以下になることもあり、積雪量も多く、かつては畑作中心でしたが、酪農、肉牛経営に変わってきています。占冠の大地で育まれたミネラル十分の牛乳が毎日村外に出荷されています。また、北海道内で最も古い肉牛の産地として知られる和牛は、全国各地に肥育素牛として出荷されています。総面積の94%を森林が占める村では、林業が農業と共に村を支える基幹産業の役割を果たしてきました。現在も大切な森林資源を守るため、除間伐などさまざまな取り組みがなされています。そんな自然の授かりものでもある豊富な山菜は占冠の特産品です。

南北に細長く分布する6市町村は、調べると水稻、畑作、酪農・

畜産と広範囲で多様な農業生産活動が展開されていました。生産者の顔が見える、食の安全を求める流れの中で、ほんのさわりと言えるかもしれませんが、この地の農業に触れてみました。地産地

消の推進や、安心・安全な食づくりと、農業生活を取り巻く環境も変わりつつあります。「ふらびズム」地域の農業を少しでも知り、その魅力を感じていただければ幸いです。(恭)

後継者対策とアグリパートナー事業

恵まれた自然と豊かな大地のもとで生産性の高い大規模で専門的な経営が展開されている農業ですが、高齢化と後継者不足という深刻な問題があります。北海道、道内各市町村、農業関係団体は、協力して青年農業者の育成確保に力をいれています。特に農業青年が良きパートナーにめぐり合う出会いのチャンスをつくる活動が盛んです。交流会やバスツアーで出会い、パートナーとなり農家を継ぐ方々も少なくありません。今号の「住む!ピープル」の6組は、そのような機会に出会った若手農家の皆さんです。話を聞き、その生活ぶり、幸せぶりを肌で感じました。このような活動は農業後継者を守っていく一助になっているかもと確信しました。

JAふらのでは**2011年11月12日(土)、13日(日)「JAふらのパートナー交流会」**を実施します。蕎麦打ち体験、トラクター試乗、地域の散策などを企画中です。参加費無料。お問合せは、JAふらのアグリパートナー対策本部 担当 秋田まで ☎0167-23-3534

<http://www.ja-furano.or.jp/html/hanayome.htm>

上記に先がけ**2011年10月15日(土)、16日(日)「オータムフェスティバル」**が1泊2日で開催されます。内容は、農村の若者と収穫体験や交流会で、こちらの主催は美瑛町から占冠村の6市町村の農業委員会です。お問合せは、富良野地方アグリパートナー協議会まで <http://www.city.furano.hokkaido.jp/agri/autumn2.html>

移住者に聴きたい

～第五回～

占冠村 岡崎善二さん



▲岡崎善二さん
「ほ～ねほ～ね」といって能登弁になごみます



暮らしを楽しめる地域づくり 58歳からのスタート

北海道に移住し約1年。占冠村に在住し5ヵ月が経った岡崎善二さん。占冠村役場の臨時職員で移住・企業誘致ワンストップ窓口の担当です。石川県宝珠郡穴水町役場の職員だった岡崎さんは「地域情報の発信をしてみたい」という思いで早期退職。臨時で(株)ラジオふらのの映像特派員を経験した後占冠村に移住。村のPRや移住推進の情報発信に取り組んでいます。「特派員で取材をした時、村の暮らしや風景が大好きになってとうとう移住してしまったという訳。村の情報を共有する場所があれば、交流が生まれ、楽しい地域づ

特派員時代に撮影 占冠村を流れる鶴川

くりにつながるかも…。たとえば情報カフェとかあったらいいよね」と夢を語る岡崎さん。ラジオでは一緒に仕事をした私ですが、見ず知らずの土地でもすぐに仲間を作り、若い人たちに交じって初めての仕事にチャレンジする姿にバイタリティーを感じました。(多)



前号にも登場したトマムの雲海 岡崎さん撮影

のんびり散歩道

散歩道⑤ 朝日ヶ丘と徳平コース



◀緑の散歩道(H23.8撮影)
▲山桜以外にもハナノキやトドマツも(H23.5撮影)

富良野は1897年に入植者による開拓が始まりましたが、ぬかるみの多い泥炭地が開墾を阻みました。1917年頃に兜谷徳平(かぶとやとくへい)氏が排水事業を始め、泥炭地を水田へと変えました。その功績から富良野原野開発の父といわれた兜谷氏の胸像が朝日ヶ丘公園にあります。公園は富良野市の北西部に位置し、春に約3000本の山桜が咲き誇る名所として有名です。戦前、現富良野小学校校舎建築のため山林を伐り出し、はげ山となり「なまこ山」と呼ばれました。緑生い茂る今もその名で親しまれています。中腹に駐車場

があり、そこから徒歩で約5分の場所に兜谷氏の胸像があります。1938年に建立され、1950年に復元された胸像には「兜谷徳平翁」と名前があり、裏側には旧字で略歴が書かれています。行くまでに数多くの石仏・石碑が見られ、その中には開拓期の相棒である馬を祀った馬頭観音(ばとうかんのん)もあります。富良野開拓期に想いを馳せながらのんびり散歩してみませんか? (な)

富良野駅 → 富良野市役所 → 朝日ヶ丘公園
→ 富良野駅 ●全長約6km/1時間半



胸像の前方にはタマネギ畑、後方には水田が広がる